



ファブリックのクラウドゲートウェイとしての Cisco Catalyst 8000V



(注) 簡素化と一貫性を実現するために、Cisco SD-WAN ソリューションは Cisco Catalyst SD-WAN としてブランド名が変更されました。さらに、Cisco IOS XE SD-WAN リリース 17.12.1a および Cisco Catalyst SD-WAN リリース 20.12.1 以降、次のコンポーネントの変更が適用されます。**Cisco vManage** から **Cisco Catalyst SD-WAN Manager** への変更、**Cisco vAnalytics** から **Cisco Catalyst SD-WAN Analytics** への変更、**Cisco vBond** から **Cisco Catalyst SD-WAN Validator** への変更、**Cisco vSmart** から **Cisco Catalyst SD-WAN コントローラ** への変更、および **Cisco コントローラ** から **Cisco Catalyst SD-WAN 制御コンポーネント** への変更。すべてのコンポーネントブランド名変更の包括的なリストについては、最新のリリースノートを参照してください。新しい名前への移行時は、ソフトウェア製品のユーザーインターフェイス更新への段階的なアプローチにより、一連のドキュメントにある程度の不一致が含まれる可能性があります。

- [ファブリックのクラウドゲートウェイとしての Cisco Catalyst 8000V について \(2 ページ\)](#)
- [ファブリックのクラウドゲートウェイとしての Cisco Catalyst 8000V の使用例 \(2 ページ\)](#)
- [ファブリックのクラウドゲートウェイとしての Cisco Catalyst 8000V の前提条件 \(3 ページ\)](#)
- [ファブリックのクラウドゲートウェイとしての Cisco Catalyst 8000V の制約事項 \(3 ページ\)](#)
- [ファブリックのクラウドゲートウェイとしての Cisco Catalyst 8000V の設定 \(3 ページ\)](#)

ファブリックのクラウドゲートウェイとしての Cisco Catalyst 8000V について

表 1: 機能の履歴

機能名	リリース情報	説明
ファブリックのクラウドゲートウェイとしての Cisco Catalyst 8000V	2023 年 5 月	この機能を使用すると、仮想プライベートクラウドをプライベートデータセンターに接続するためのクラウドゲートウェイとして Cisco Catalyst 8000V デバイスを設定できます。

Cisco Catalyst 8000V は、仮想プライベートクラウド（VPC）をプライベートデータセンターに接続するためのクラウドゲートウェイとして機能します。

要件に応じて、次の方法で Cisco Catalyst 8000V デバイスをクラウドゲートウェイとして設定できます。

- 新しいファブリックを作成し、ファブリック内の各リージョンのクラウドゲートウェイとして Cisco Catalyst 8000V デバイスを追加します。
- 既存のファブリックの各リージョンに Cisco Catalyst 8000V デバイスを追加します。
- 既存のファブリックの Cisco vEdge Cloud を Cisco Catalyst 8000V デバイスに置き換えます。

ファブリックのクラウドゲートウェイとしての Cisco Catalyst 8000V の使用例

- VPN 経由でアクセスするプライベートデータセンターにサーバーが存在する場合の認証、許可、およびアカウントिंग（AAA）のための、ファブリックと TACACS または RADIUS サーバーとの統合。
- VPN 経由でアクセスするプライベートデータセンターへの syslog 情報の送信。

ファブリックのクラウドゲートウェイとしての Cisco Catalyst 8000V の前提条件

- Cisco SD-WAN Manager 管理者のユーザー名とパスワードが必要です。
- Cisco スマートアカウント管理者のユーザー名とパスワードが必要です。
- ファブリックに追加する Cisco Catalyst 8000V のシリアル番号を知っている必要があります。

ファブリックのクラウドゲートウェイとしての Cisco Catalyst 8000V の制約事項

- バージョン 20.6 以降のファブリックバージョンを使用している必要があります。

ファブリックのクラウドゲートウェイとしての Cisco Catalyst 8000V の設定

はじめる前に

設定する各 Cisco Catalyst 8000V デバイスのシリアル番号を取得します。これを行うには、[Cisco Software Central](#) に移動し、[Smart Licensing] エリアの [Network Plug and Play] の下にある [Manage Devices] をクリックします。

設定手順

次の表では、さまざまなシナリオで Cisco Catalyst 8000V デバイスをクラウドゲートウェイとして設定する手順について説明します。各シナリオについて、一般的な手順と詳細情報の参照先を表に示します。要件に該当するシナリオを参照してください。

シナリオ	一般的な手順	参照先
新しいファブリックを作成し、ファブリック内の各リージョンのクラウドゲートウェイとして Cisco Catalyst 8000V デバイスを追加します。	ステップ 1 : Cisco Catalyst SD-WAN ポータルで新しいファブリックを作成します。	「Cisco Catalyst SD-WAN クラウドホスト型ファブリックの作成」 を参照してください。
	ステップ 2 : Cisco Catalyst SD-WAN ポータルでクラウドゲートウェイを設定します。	Cisco Catalyst SD-WAN ポータルでのクラウドゲートウェイの設定（4 ページ） を参照してください。
既存のファブリックの各リージョンに Cisco Catalyst 8000V デバイスを追加します。	Cisco Catalyst SD-WAN ポータルでクラウドゲートウェイを設定します。	Cisco Catalyst SD-WAN ポータルでのクラウドゲートウェイの設定（4 ページ） を参照してください。
既存のファブリックで Cisco vEdge Cloud を Cisco Catalyst 8000V デバイスに置き換えます。	ステップ 1 : Cisco Catalyst SD-WAN ポータルでクラウドゲートウェイを設定します。	Cisco Catalyst SD-WAN ポータルでのクラウドゲートウェイの設定（4 ページ） を参照してください。
	ステップ 2 : (オプション) シスコにサポートケースをオープンし、既存の Cisco vEdge Cloud の削除を要求します。	ファブリック更新のサポートケースのオープン（7 ページ） を参照してください。

Cisco Catalyst SD-WAN ポータルでのクラウドゲートウェイの設定

1. 管理者のログイン情報で Cisco Catalyst SD-WAN ポータルにログインします。
2. クラウドゲートウェイを設定するファブリックをクリックします。
3. **[Actions]** ドロップダウンメニューから **[Add Cloud Gateways]** を選択します。
4. 次の表で説明するフィールドを設定します。



(注) Cisco Catalyst SD-WAN ポータルは、これらのフィールドに入力したユーザー名とパスワードを保存しません。

フィールド	説明
vManage 管理者のログイン情報	
[Username]	Cisco SD-WAN Manager 管理者のユーザー名を入力します。

フィールド	説明
[Password]	Cisco SD-WAN Manager 管理者のパスワードを入力します。
スマートアカウント管理者のログイン情報	
[Username]	Cisco スマートアカウントの管理者のユーザー名を入力します。
[Password]	Cisco スマートアカウントの管理者パスワードを入力します。
クラウドゲートウェイのシリアル	
シリアル (Serial)	表示される [Serial] フィールドの数は、ファブリック内のリージョンの数と一致します。 各フィールドに、クラウドゲートウェイとして機能する Cisco 8000V のシリアル番号を入力します。 各シリアル番号は一意である必要があります。
カスタム IP	

フィールド	説明
[System IPs]	表示される [System IPs] フィールドの数は、ファブリック内のリージョンの数と一致します。 (オプション) 各フィールドに、追加するクラウドゲートウェイのシステムインターフェイスを設定する IP アドレスを入力します。 システムインターフェイスの IP アドレスは、デバイスを識別する永続的なアドレスです。これは通常のルータのルータ ID に似ていて、パケットの発信元のルータを識別するために使用されるアドレスです。 システムの IP アドレスを 10 進 4 部ドット表記の IPv4 アドレスとして指定します。アドレスだけを指定してください。プレフィックス長 (/32) は暗黙的です。 システム IP アドレスには、0.0.0.0/8、127.0.0.0/8、224.0.0.0/4、および 240.0.0.0/4 以降を除く任意の IPv4 アドレスを使用できます。 システム IP アドレスを指定しない場合、Cisco Catalyst SD-WAN ポータル はシステムのランダム IP アドレスを割り当てます。このアドレスは別のデバイスの IP アドレスと重複する可能性があります。 ファブリックで競合が発生することなくクラウドゲートウェイがプロビジョニングされるようにするために、入力する IP アドレスが既存のファブリックで使用されていないことを確認してください。

フィールド	説明
[Enable Webhook via Cloud Gateway]	このオプションは、AWS がクラウドプロバイダーである専用ファブリックにのみ適用されます。 Cisco SD-WAN Manager がクラウドゲートウェイを介して Cisco SD-WAN Manager からウェブフックメッセージをルーティングできるようにするには、このチェックボックスをオンにします このオプションを有効にすると、ウェブフックサーバーがプライベートネットワークでホストされており、インターネットトラフィックがこのサーバーに転送されない場合に役立ちます。このオプションが有効になっている場合、SD-WAN ファブリックとプライベートネットワーク間の接続がプロビジョニングされます。 このオプションを有効にした後、Cisco SD-WAN Manager サーバーのルーティングテーブルにエントリを追加し、ネットワークトラフィックがクラウドゲートウェイを介してウェブフックサーバーに転送されるようにします。手順については、クラウドゲートウェイのプロビジョニング後に受信する電子メールを参照してください。

5. [Submit] をクリックします。

ファブリック更新のサポートケースのオープン

ファブリック更新のサポートケースをオープンするには、シスコの [Support Case Manager](#) に移動し、シスコのログイン情報でログインして、**[Open New Case]** をクリックします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。